

平成18年10月24日

報道機関各位

東北大学大学院医学系研究科

東北地方の医師不足の実態

- 東北地方の病院・医師を対象としたアンケート調査の結果について -

昨年、東北大学大学院医学系研究科地域医療システム学（宮城県）寄附講座が実施しました標記の調査につきまして、このたび、その調査結果の一部をとりまとめ、学会で発表する予定ですので、お知らせいたします。

1 調査の目的と経緯

- ・ 東北地方をはじめとして全国的に問題となっている医師不足について調査を行い、これからの医療体制を考える基礎資料にすることを目的に実施（別紙写し）
- ・ 現在、集計・分析中

2 今回発表する調査結果

- ・ 調査項目のなかでも医師不足の有無についてのデータの分析結果
- ・ 調査結果の概要（別紙資料）
- ・ なお、その他の調査項目については、今後、分析を行い、公表する予定です。

3 発表学会

- ・ 名称：第65回日本公衆衛生学会総会
- ・ 期間：平成18年10月25日（水）～27日（金）
- ・ 場所：富山市
- ・ 学会HP：<http://www.ec-japan.jp/65jsph/>
- ・ 発表日時：10月27日（金）午前9時～12時
- ・ 発表会場：富山県民会館
（示説第5分科会 発表番号 P05-023）
- ・ 発表形式：ポスター発表
- ・ 発表者：金村政輝（かねむら せいき）
東北大学大学院医学系研究科
地域医療システム学（宮城県）寄附講座 助教授
- ・ その他：今回の発表資料を縮刷したものを会場で配布します。
また、学会終了後、当講座のHP上でPDFファイルを公開します。
ご要望があれば、電子メール、ファクシミリで提供します。

（問い合わせ先）

東北大学大学院医学系研究科

地域医療システム学（宮城県）寄附講座

担当 金村，木村，小笠原

電話 TEL 022-717-7599,8022

URL <http://www.immem.med.tohoku.ac.jp/localmed/>

E-mail tiiki@immem.med.tohoku.ac.jp

- 1 調査対象 東北地方の病院と医師
- 2 調査方法 アンケート調査
- 3 回収状況 329 病院，2,246 人の医師から回収
- 4 分析対象 329 病院（東北地方の全病院の 49.0%に該当）
東北地方の医療機関で従事している 2,091 人の医師
（東北地方の医療機関で従事する医師の 12.0%に該当すると推計）
- 5 有効回答（ 「医師不足」の質問について回答のあったもの）
321 病院（平均病床 206.4 床）
2,006 人の医師（男 88.5%，女 11.0%，平均年齢 46.5 歳）
- 6 回答結果 149 病院（有効回答の 46.4%），1,298 人の医師（有効回答の 64.7%）が「医師不足」と回答。
- 7 分析結果の概要
 - 病院に対するアンケート調査
 - ・ 青森県の 60.7%，岩手県の 44.0%，秋田県の 48.5%，宮城県の 38.3%，山形県の 56.5%，福島県の 34.0%が「医師不足」と回答。
 - ・ 県庁・大学所在地の病院でも 25.3%が「医師不足」と回答。
 - ・ 法令上の不足医師数は 371.0 人(平均 2.5 人)で，その内訳は，青森県 96.5 人，岩手県 56.0 人，秋田県 51.3 人，宮城県 73.1 人，山形県 41.8 人，福島県 52.3 人であった。
 - ・ 運営上の必要医師数は 1294.3 人(平均 4.8 人)で，その内訳は，内科 205.4 人，整形外科 101.0 人，小児科 83.0 人，精神科 80.6 人，消化器科（胃腸科）77.0 人，麻酔科 77.0 人の順であり，産婦人科は 49.3 人であった。
 - 医師に対するアンケート調査
 - ・ 青森県の 74.2%，岩手県の 73.2%，秋田県の 62.2%，宮城県の 54.9%，山形県の 70.1%，福島県の 71.1%が「医師不足」と回答。
 - ・ 従事地別では，県庁所在地 64.3%，その他の市 67.1%，町 56.3%，村 75.0%が「医師不足」と回答。
 - ・ 従事施設別では，診療所 18.2%，医療機関(大学病院)85.9%，その他の病院 69.3%が「医師不足」と回答。
 - ・ 回答した医師が従事している診療科における不足医師数は平均 1.4 人であり，医師の性別，年齢，従事地，従事施設，診療科で大きな違いは見られなかった。
- 8 今回の調査結果について
全国的に医師不足は深刻な問題となっているが，その実態についての定量的なデータに乏しい（例えば，不足医師数はどれくらいかなどは明らかではない）
今回の調査結果から，医師不足は東北各地・診療各科に及ぶことが明らかとなった。
今回の調査結果から，医師不足は，医師の「地域・診療科の偏在」では説明困難と考えられた。
解決のためには，医師不足の実態を踏まえた検討が不可欠である。



平成17年11月18日
 東北大学大学院医学系研究科
 地域医療システム学（宮城県）寄附講座
 地域医療教育開発センター

**東北地方の全病院・医師を対象とした
 地域医療の実態とニーズに関するアンケート調査に着手しました**

東北地方をはじめとして全国的に医師不足が問題となっています。医師不足は、地域医療体制に影響を与える大きな問題です。しかし、地域医療体制の確保・構築について議論を進めるためには、地域医療の実態やニーズについて十分なデータがあるとは言いがたい状況にあります。

そこで、現場の病院及び医師の声・意見を聴取し、調査で得られたデータをもとに、これからの医療体制を考える基礎資料にすべく、東北地方を対象として地域医療の実態とニーズについて調査を行うこととしました。そして、10月1日付けで東北地方の全病院及び医師を対象にアンケート調査票を送付し、調査への協力を依頼したところです。

1. 主な調査事項

区分	病院アンケート	医師アンケート
病院又は医師に関する基本的な事項について	病床数など	性、年齢、卒業年、主に従事している施設・業務など
病院の実態又は医師の勤務実態について	医師数、患者数など	受け持ち患者数、勤務日数・時間数、当直日数、休日取得日数、患者の紹介状況など
医師不足について	必要医師数など	医師不足感の有無など
診断・治療情報、生涯教育、学会活動について	職員を対象とした研修会等の開催状況など	インターネットへの接続状況、診断・治療情報配信への希望、研修会や学会等への参加状況など
女性医師への支援体制について	女性医師への支援体制の有無	女性医師が仕事を続けていく上での問題、必要な支援など
退職医師の活用について	退職医師の活用状況など	応援を求められた場合の対応など
医師不足の解消について	病院・地方自治体・国・大学・学会がすべきことなど	病院・地方自治体・国・大学・学会がすべきことなど
日本の医療について	問題点など	問題点など

2. 進捗状況

現在、アンケートの回収をしているところです。

3. 調査結果の扱い

今後の地域医療体制のあり方と地域医療に従事する医師の支援策を検討するために活用させていただきます。また、報告書等の形で公表させていただき、関係者の皆様方にも還元してまいりたいと考えております。

4. その他

本調査につきましては、河北新報（平成17年11月18日朝刊）にも取り上げられました。

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 東北大学大学院医学系研究科地域医療システム学（宮城県）寄附講座
 電話 022-717-7599（金村、本村） FAX022-717-8041
 東北大学大学院医学系研究科附属地域医療教育開発センター
 電話 022-717-7600（溝口） FAX022-717-8041
 メールアドレス tiiki@imnen.med.tohoku.ac.jp